

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100327		
法人名	株式会社アイ・エム・シー ライフステージ		
事業所名	グループホーム大原		
所在地	〒780-8031 高知市大原町88-2		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣には公共施設や集合住宅が混在しており、地域との関係性が希薄な状況であるが、運営推進会議等で地域の情報収集を行ない、事業所での行事に地域住民が気軽に参加できるよう交流の機会を模索している。</p> <p>利用者の多くの介護度は中程度で、自立支援の視点を大事にし、様々な場面での自己決定を重んじた生活を送れることを意識したケアを心掛けている。また、近くのコンビニエンスストアへの買い物や、ファミリーレストランにおやつを食べに行ったり、近隣の散歩、施設内行事の開催などで、事業所での生活が画一的にならないよう努力している。</p> <p>職員は母体法人内の研修、外部研修、事業所内勉強会等に参加し、ケアの質の向上を図るべく、倫理、知識、技術の向上に努めている。また、利用者が施設で楽しく穏やかに過ごせるよう、人生の先輩との敬いの気持ちを忘れず、節度を守り、共に支え合うことを大切にしている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jkyosyoCd=3990100327-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念でもある「人生の先輩である利用者の意思を尊重する」ことから、職員は常に利用者の思いを把握し、心のこもった関わりを保って日々のケアに取り組んでいる。事業所内に「防災感染部会」「教育部会」「地域広報部会」の3部会を設置し、目標を設定してテーマごとの研修や行事等を提案して、理念の実践に日々努力を重ねている。</p> <p>開設9年目、居宅介護支援事業所と小規模多機能事業所が併設された建物の1、2階にある、明るい事業所である。利用者が重度化する中、本人や家族の希望があれば看取りを行なう方針で取り組んでいる。昨年度はインフルエンザ感染症予防のため、家族に依頼して、全員の居室に加湿器を設置し、成果を上げることができた。</p> <p>管理者も3年目を迎え、管理者を中心に職員一丸となって、利用者一人ひとりの想いを大切にケアの推進が期待出来る事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員が、毎週事業所理念実践のための目標を設定し、その目標達成に向けた各々の成果を発表することで、理念の共有と実践への意識を高めていく取り組みを行っている。</p>	<p>母体法人の経営理念と基本理念が各フロア入口に掲示され、すぐ目につくようになっている。職員は、理念実践のための具体的な目標を設定し、理念の実践に努めている。ケアに対する職員の意識改革についての話し合いも継続的に行っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域広報委員会を中心に事業所の行事や取り組みなどを新聞にして地域に配布し、地域とつながる取り組みをし実施している。敬老会では外部に歌や踊り、演奏などを依頼して、利用者を楽しんでもらっている。</p>	<p>近隣の地域住民との関わりが気薄で、地域行事にも参加していない。敬老会やクリスマス会時には、高知大学生のよさこい踊りやコーラスの披露がある。2ヶ月毎に発行の小規模多機能事業所との合同新聞は、地域の小学校や保育園などに持参している。</p>	<p>地区長や民生委員との連携の強化を図り、地域活動への参加や近隣の地域住民との交流など、具体的な取り組みを実施して、地域との連携が深まることを期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて、外部に事業所の理解が深められるよう努めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度開催し、事業所の活動、取り組み状況の報告を行い、出た意見を活かすことで、サービスの向上に努めている。</p>	<p>事業所から現況や活動、事故などの報告はされているが、外部評価結果や目標達成計画は報告されていない。民生委員のみで地区長の参加がなく、会議では質疑応答が少なく、意見等も余り出ていない。会議の議事録も家族に送付されていない。</p>	<p>行政機関、地区長、家族の参加を確実に得て、外部評価結果や目標達成計画も報告、協議することで会議の活性化を図り、会議での意見をサービス向上に活かすことを期待する。議事録は、家族に送付されたい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参画やグループホーム連絡会への参加を通じて、課題などがある際には相談できる関係が築けている。</p>	<p>地域包括支援センター担当者には、日頃から事業所の状況を伝え、適切なアドバイスを受けている。高知市南部地区のグループホーム連絡会が2ヶ月に1回開催され、高知市や地域包括支援センター担当者からの助言を受けている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的で開催しているフロア会、事業所勉強会で身体拘束のないケアについての意識を持ち、実践している。言葉遣い、声掛けの抑制にも配慮している。また、夜間帯以外の玄関の施錠は行っていない。</p>	<p>外部研修への参加や、内部研修会を通じて身体拘束をしないケアについて、全職員が理解している。言葉による拘束となる言葉遣いには、職員同士で注意し合っている。家族の了解を得て、転倒防止のためのセンサーマットを取り付けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修受講を通じて、職員は、言葉遣い、声のトーン、態度などが不適切なケアにつながることを再認識するとともに、高齢者虐待防止の内容を事業所勉強会にも取り入れて、意識を高めていっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用する利用者いないが、勉強会や講習会などを設けて、職員の理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を設けて契約書に基づいて説明し、家族の不安点や疑問点を率直に話してもらえる雰囲気作りにも配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の電話連絡や面会の際に利用者に関することは勿論のこと、どんな些細なことでも、家族からの意見、要望を聞いている。話し易い雰囲気作りも心掛けている。家族会、運営推進会議出た意見は、運営に反映している。	家族会では、家族だけで話し合う機会を作っている。家族から「職員の名前が分かるようにしてほしい」との要望があり、フロア入口に職員の名前と顔写真を張り出している。家族の面会も多く、その場で話しを聞き、思い、意向などが汲み取れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、フロア会などでは、職員個々の意見を発表してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。	月1回ユニット毎のフロア会では、職員から意見や要望を聞いている。「防災感染部会」「教育部会」「地域広報部会」の3部会の各部会員から今後の予定の報告もされ、職員の考えが運営に反映されるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員との面談の機会を設け、意見を聞いて対応している。福利厚生充実により働きやすい環境を作り、職員のやりがいに繋がるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の勉強会への参加や、リーダー研修の講習内容をフロア会、事業所勉強会で報告し、資質の向上を図るとともに、職員個々の日々のケアの在り方を観察し、適宜助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会へ参加することで情報の交換を図ったり、定期的に母体法人内の事業所との勉強会を開催するなどして、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の入所以前の生活歴、生活環境、趣味、家族関係など、生活状況の把握を行い、どのような生活を希望しているのかなどを聞いて、関係性を深めていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所以前から、どんな些細なことでも話しやすいような雰囲気作りを心掛けている。これまでのサービス利用経緯も踏まえ、少しずつでも利用者との関係が築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、利用者の生活環境、生活状況、家族関係などを聞き、他のサービス利用も含めて、最適の対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が「自由に選ぶ、決定できる」意思の尊重を大切にし、自立に向けたケアを心掛けることで、暮らしを共にし、支える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日常生活状況について、面会の際や電話時などに報告し、家族の意向も聞くようにしている。利用者との関係を大切にしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族に協力を依頼しつつ、馴染みの場所や知人、親類と会える機会を作っている。また、電話を掛けたり、来所し易い雰囲気を中心掛けるなどして、両者との関係性が途切れないように努めている。</p>	<p>利用者からの要望があれば、家族の協力を得て、自宅への帰宅や馴染みの場所に出かけている。友人の訪問もあり、初詣にも出かけている。市の花火大会は事業所から打ち上げ花火が良く見え、馴染みの行事を楽しめている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>家事活動や食事などを通じた利用者同士の交流が図れるよう、職員が間に入って見守りと支援を行うことで、よりよい関係が作れるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族に連絡し、病院などへの見舞いや、面会に赴くなど、その後の関係も大切にしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前に、本人、家族から生活歴、生活環境等を聞き、利用者の立場に立って思いや意向を汲み取るとともに、入所してから本人の思いを日頃の会話や表情などから理解して、確認している。</p>	<p>入所時に利用者の生活歴などの基本情報について家族から情報を得て、利用者の意向を汲み取るようにしている。入所後の日々の関わりの中でも、行動や表情などから思いや意向の把握に努めているが、利用者の思いは個々の介護記録をすべて読まなければ分かりにくい。</p>	<p>日々の関わりの中での新たな気づきなどを追加事項として書き加え、利用者の思いや意向が一目でわかるような一枚ものの記録を作り、容易に情報共有できるようにすることを期待したい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時に本人、家族から生活歴を聞き、入所後も家族から追加情報を把握し、確認するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の過ごし方を観察し、毎日の申し送りやケース記録を通じて職員間での情報共有をして、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアプランに基づき、フロア会などで実践状況、気付きを職員間で話し合い、情報共有を行うとともに、定期的な見直しを行い、利用者個々の状況に応じた適切な介護計画となるよう努めている。家族にも意見を聞き、意向は反映させている。	介護計画は日々のケアの中で気付いた事や利用者の変化を把握し、本人や家族の意向を確認して、フロア会でカンファレンスを行い作成している。3ヶ月毎の見直しと合わせて、状況に変化が生じた場合はその都度見直し、柔軟な対応に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態の変化などを個人ケース記録や日誌に記録している。職員間での情報共有を行い、ケアプランの見直しと再確認へつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況によっては、受診や通院の付き添い、買い物代行など、その時に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の情報収集に努め、接点を見出せるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望のかかりつけ医を受診してもらっている。家族の付き添いを基本としているが、必要に応じて職員が付き添いするなど、柔軟な対応をしている。かかりつけ医とは連絡を密に取り合い、連携を図っている。	本人、家族の希望を聞き、入所時のかかりつけ医を継続している。協力医療機関をかかりつけ医としている6名は、2週間に一度往診を受けている。受診結果は家族、事業所双方で共有しており、受診記録も残している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護で利用者の日々の状態の把握、確認をしてもらっている。看護師とは24時間連絡可能な体制を備えており、利用者の健康管理、状態把握について事業所との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には定期的に面会に赴くとともに、かかりつけ医と連絡を取り合い、出来るだけ早期の退院に向けて連携している。入院医療機関とは、情報の収集、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際に看取りの方針・指針に基づき、事業所に対応できる支援について説明をし、家族からの同意を得ている。事例は少ないものの、今後、安心して看取りができる体制を作っていく。	契約時、看取りに関する指針の説明を行い、同意を得ている。最近の看取りの事例は無いが、家族から要望があれば、主治医を交えて方針を検討し、支援できる体制にはある。その際には、職員もフロア会を通じて、カンファレンスの中で看取りに必要な情報共有をする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の際には、速やかに対応できるよう新人研修や勉強会などの機会を設け、職員のスキル向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って、緊急連絡網を作成し、避難訓練の実施を行っている。運営推進会議の地域代表者との協力体制は築けている。	併設の小規模多機能事業所と合同で、防災訓練を年2回行っている。1回は消防署の指導を受け、もう1回は火災、地震想定、夜間想定などの自主訓練を実施しているが、訓練時の地域住民の参加協力は得られていない。各階に非常用食料、水、日用品などが備蓄されている。	災害時には近隣住民の協力は不可欠なので、年2回の防災訓練時には、運営推進会議の参加メンバーにも呼びかけ、地域住民の参加協力を得て、実施することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、関わりの中で、一人ひとりの人柄を理解して、プライドや誇りを傷つけることのないよう、対応、言動、言葉遣いには十分な配慮を行っている。	プライバシー保護については勉強会を通して、全職員が理解している。トイレ誘導時には耳もとでさりげなく声かけしている。居室の入室時はノックをして、確認のうえ入室している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自身で決める・選ぶ」を念頭に、好みの飲み物の提供、衣服の選択など、日常の生活において本人の意向を大切に、自己決定できる場面作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせた生活ペースを大切に、リビングや自室にて自由に過ごせるよう、配慮を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたい利用者には自由にしてもらい、衣類の選択などの自己決定を大切にしている。訪問美容では、毛染めをしたい利用者にはしてもらうことで、気分も高揚できるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや盛り付け、炊事など、可能な手伝いを利用者にしてもらっている。食事の献立や食材の調達は業者に依頼し、利用者の嗜好を伝えている。	母体法人の栄養士が作った献立をベースに調理されているが、利用者からの要望で月1回、寿司なども注文して味わっている。食事介助の必要な利用者には付き添いながら、職員も一緒に食事している。盛り付けや食器洗いなど、利用者も出来ることをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士が、栄養のバランスを考慮して献立を考え、利用者の状態に応じて食事形態の考慮をし、偏ることのないようにしている。健康チェック表で、食事と水分摂取量の把握を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて声掛けと必要な支援で、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に合わせ、適宜のトイレ案内とパッド、リハビリパンツの交換、清拭などの支援を行っている。羞恥心には、十分な配慮をしている。	排泄チェック表の記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、食事前や個人毎の目安時間、利用者の動きなどから、トイレ誘導している。日中は布パンツ4名で、他の利用者は紙パンツにパッドでトイレでの排泄を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のこまめな水分提供と、起床時の牛乳の提供、体操や運動、散歩などできる限り体を動かすことで、自然な排便を促すことができるよ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否がある利用者に対しては、声掛けやタイミングを変えるなどの工夫をして、入浴を促している。強い拒否がある利用者には、状況を見て、清拭やドライシャンプーなどで清潔を保つようにしている。	本人の希望もあり、3日に一度午後の入浴となっている。入浴拒否の利用者には、時間を調整したり、誘導方法などを工夫して、入浴支援を行っている。異性職員支援を拒む利用者には、同性の職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に家事活動、運動、体操などで身体を動かし、安眠へとつながるよう努めている。希望するときには、日中でも自室やリビングで休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、健康チェック表や日誌で、服薬用法などの情報共有をしている。服薬支援は2人一組で行い、誤薬防止に対する意識を高めたうえで、取り組んでいる。服薬前後の確認も、利用者個々に声を出して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にちなんだ行事計画を立て、毎月一人ずつ事業所外に出て、楽しんでもらう計画を実施中で、喜びの声をもらうとともに、昔話しに花が咲いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物が楽しみな利用者には、可能な限り買物への同行を行うとともに、散歩への同行支援等を行っている。	毎日一回の散歩は全利用者が行っている。買物に行きたい利用者は、近くのコンビニ、スーパー、木曜日などに散歩を兼ねて出かけている。月1回はドライブでコスモスや菊花展などの季節の花見観賞に出かけ、その帰りには外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所での預かりを基本とし、希望で個人で所持する利用者については、家族に了承を得ており、高額にならないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人、友人の方などへ電話ができるよう、支援している。個人で携帯電話を持っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しく、居心地よく生活できるよう、光や温度の調節を行っている。フロア内に花や観葉植物を飾ったり、イベント時の写真を飾ったりして、生活感を感じてもらえる工夫も行っている。	南向きのフロアには暖かい日が差し込み、明るい共有空間に置かれたテーブルと、ゆったり座れるソファでは、利用者が思い思いに寛いでいる。壁面には、イベント写真や利用者の作ったぬり絵などが飾られている。清潔な空間維持のため、共有スペースの掃除は、外注している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のテーブルの他、ソファも設置しており、利用者が好きな時に自由に過ごせる空間作りを行っている。また、日中、夜間を問わず、自室への自由な出入りが可能である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に依頼し、馴染みの品や使い慣れた物を持参するよう、協力を得ている。希望により居室の模様替えを行うことも可能であり、快適に居心地よく生活してもらえるように努めている。	使い慣れた衣類がパイプハンガーに掛けられ、備え付けの整理ダンス以外にも収納チェスに衣類などが収納されている。テレビ、鏡台、仏壇があるほか、家族、孫の写真が飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの廊下やトイレ内に手すりを設置し、フロア内、廊下、居室などは全面バリアフリーとなっている。安全かつ、利用者個々に合わせて快適に自立した生活が送れるよう、工夫、配慮をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の理念の唱和で職員の意識づけはできており、職員ごとに毎週目標設定をして取り組むことによって、理念を実践することへの意識を高めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の活動について、地域に向けた新聞を作って配布している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域貢献の取り組みについて話し合い、アドバイスをもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず開催し、事業所活動内容や現状の説明を行いアドバイスをもらったうえで、それを活かすことでサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で様々な議題を話し合い、協力関係ができるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の受講や定期的な勉強会で身体拘束について学び、拘束を行わないケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の受講や定期的な勉強会で虐待防止について学び、虐待を行わないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用の利用者はいないが、今後は勉強会で学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約に基づいた説明は基より、家族に疑問点を尋ねたり、過去にあった例を用いて説明する等、家族の理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者も参加することで、事業所での生活ぶりを外部の人にも知ってもらえるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを密にとり、必要時に応じて面接の時間を設けて、意見を聞く場としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員との面談を実施し、職員個々の思いを踏まえて、それぞれが働きやすい環境に近づけられるよう、職場整備に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や事業所ごとの勉強会、外部の研修に参加する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や母体法人内の他事業所との合同勉強会に参加することで意見交換が出来ており、サービスの質の向上に反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や生活環境、医療面でのニーズをしっかりとかとアセスメントしたうえで、利用者本人の生の声を大事にし、関係性を深めれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことでも要望は伝えて欲しいことを家族に伝えて、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からのアセスメント、入所前の利用サービス担当者や家族からの聞き取りで、どのようなサービスが必要かについて、出来るだけ多くの視点で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動などを一緒に行ない、役割とやりがいを持てるよう支援している。また、自己決定の出来る環境作りを行い、利用者が介護されるだけの立場にならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>契約時にも、入所後は事業所に全部お任せではなく、共に利用者の暮らしを支えていくことを説明している。また、日々の変化に早めに対応し、家族に連絡が必要な場合には、速やかに連絡している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、友人が面会に来ることで関係が途切れることがない。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が交流できるような行事や余暇活動を提供し、自分からの交流が難しい利用者に対しては、職員が仲介に入って関わりが持てるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後にも、お見舞いや家族にアルバムを作って渡すことなどを行っている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に聞き取りした本人の情報をもとに、日々の会話や表情の中で思いを知るように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時のアセスメントをしっかりと行ない、入所後も新たな情報があれば家族に尋ねるなどして、情報が把握できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や日誌、また日々の申し送りやフロア会で利用者の変化や気づきについて話し合う場を作っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを行い、課題やケアのあり方について職員で意見を出し合っている。家族の意向も聞き、要望は必ず介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や日誌をもとに、フロア会や申し送り等で情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診や買い物などのニーズが発生した際は、本人や家族様の状況によっては、職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニでの買い物や訪問美容の利用で生活に潤いを持たせ、訪問ボランティアの歌や踊りで余暇を楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重している。また、必要なときにはかかりつけ医に連絡して、必要な情報が得られるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職の定期訪問があり、利用者の健康状態の把握ができています。急変時においても、すぐ連絡がとれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には定期的に見舞い行き、病院関係者から必要な情報収集を行っている。退院時にはスムーズに施設に戻って生活ができるようにカンファレンスを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、家族とかかりつけ医との話し合いを重ね、職員間での情報共有もして、家族と医療との連携ができるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修や勉強会で急変時の対応等の学びの場を設けて、対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行ない、備蓄品を準備している。運営推進会議でも地域代表と災害時の話しをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として失礼の無い対応を心掛けている。それを表現する一つの方法として、敬語を意識した言葉使いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を選ぶことはもちろん、飲み物や佃煮ふりかけの選択、入浴剤の選択と、好きなものを自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせてではなく、利用者の希望をできるだけ優先できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用している利用者が大半だが、馴染みの理容室に家族が連れて行っている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な食材切りや、もやしの根切りなどを楽しみにしている利用者もおり、支援している。片付けも積極的にしてくれる利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を全量摂取できるように食べ易い形状を工夫したり、好みの飲み物をこまめに提供する事で水分量アップできるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアできるよう、声掛け支援をしている。毎食後が難しい利用者には、就寝前に実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化された利用者も、トイレで排泄できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、冷たい牛乳の提供をしている。水分摂取や腹部マッサージなども行ない、便秘が続くような場合は看護師と連携して、便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決めてないが、夜間帯に入浴を希望されても職員の勤務上難しく、日中の入浴にしてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、好きな時間に自室で休息できるようにしている。日中は、夜間の安眠ができるように、可能な限り活動的に過ごせる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には、服薬マニュアルの周知徹底をしている。薬が変わったときには、様子を観察し何か変化があった場合には、かかりつけ医に連絡をし指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーが好きな利用者には、ゆっくりとコーヒーを楽しんでもらえるようにしている。茶道が趣味だった利用者には、月一回お茶を点てる機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	土日に必ず家族と外出する利用者様がいる。事業所では、近くの喫茶店に出かけたり、買い物や季節のイベントを見に行くなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の利用者は事業所で金銭管理をしているが、小銭を自分で管理し、職員と買い物に行くことを楽しみにしている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族と自由にやりとりしている利用者がある。余暇活動として、家族に残暑お見舞いを送る支援を行なった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、季節を感じてもらえるような掲示をしている。利用者も掲示物作りに参加することがある。職員が気忙しくすることも環境を壊す原因なので、注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでも、好きな場所でくつろげるようソファも設置しており、好きなところで過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、出来るだけ馴染みの物を持ち込んでもらっている。馴染みの家具や家族の写真などを飾って、利用者が落ち着けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し、全面バリアフリーとなっている。トイレ表示を大きくして、すぐ認識できるようにしている。廊下には、障害物を置かないように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				